

事務所 〒028-3310 紫波町日詰駅前1-10-2 赤石公民館内 Tel 019-676-3999

4月21日に開催した第119回月例発表会において、発表会員が用いました資料からほんの一部の文面・図・写真を抜粋して掲載いたします。

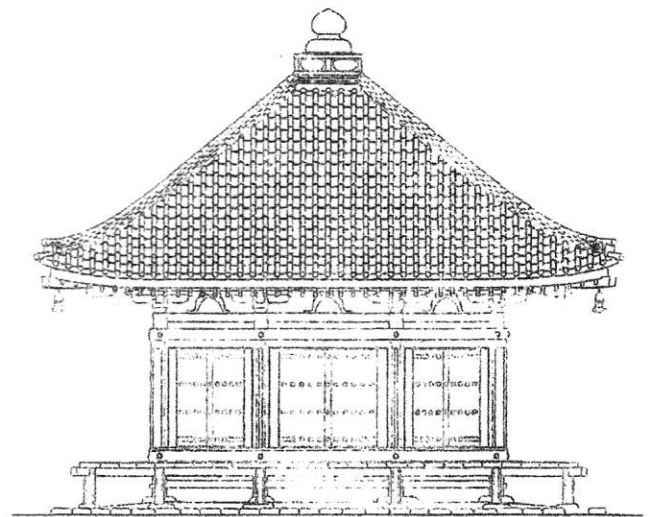
阿部朋巳氏の発表資料「金色堂の話 1—建物構造—」から

「はじめに」 現在、私としては、奥州藤原氏に関しても、また金色堂に関しても広く浅い知識しか持っておりませんが、私の関心ある事項に絞り、余り一般には話題にならない事項について、複数回にわたり、発表したいと考えています。

そこで、今回の「金色堂の話」においては、金色堂・立面図（正面）
「広く浅い」話題にならない事項」をコンセプトとして、第1回目「金色堂の建物構造」、第2回目「(仮題)棟木墨書」、第3回目「(仮題)金色堂の須弥壇と仏像」について取り上げたいと思います。

「現存する平安時代の阿弥陀堂・一間四面堂」

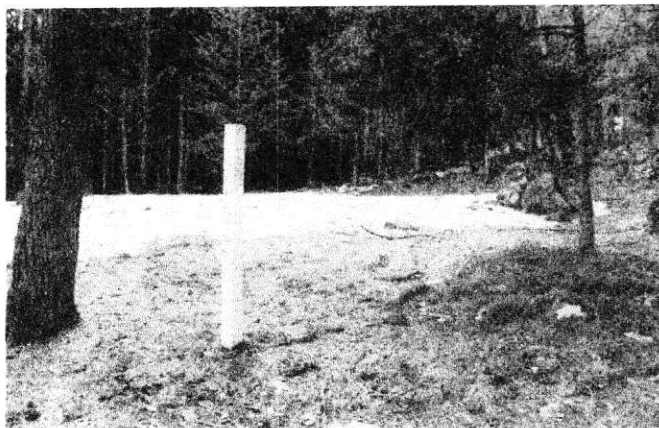
金色堂は、本尊に阿弥陀如来を奉る阿弥陀堂であり、また一間四面堂という形式のお堂です。一間四面堂とは、正面1間、奥行1間又は2間とする身舎で、四面に庇をめぐらしたお堂です。平面構成からすれば桁行×奥行が3間×3間、又は、3間×4間のお堂となります。金色堂は、3間×3間の建物です。



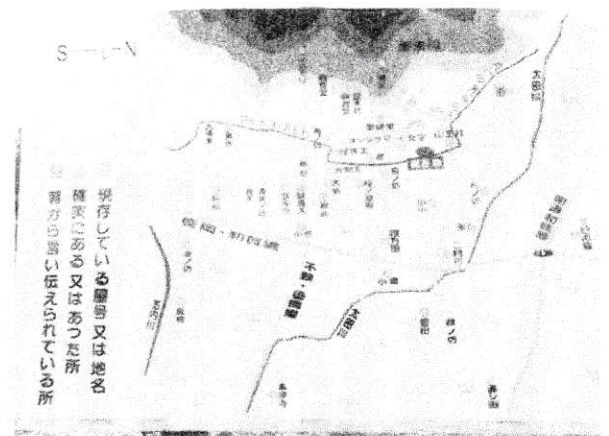
宮良男氏の発表資料「日本の仏教(12)」から

釈迦堂跡・伝法寺跡（矢巾町北伝法寺）

釈迦堂跡は、北谷地山（333m）東麓の杉林の中にあり4か所の平場があり堂宇らしい礎石と経塚らしきものが2基存在する。隣接する伝法寺館跡は、北側の沢を挟んで比高差40mの小高い山に立地しており頂上には3段の平場があり塚状も残っている。平成2年には15～16世紀の出土陶磁器類が発掘された。



釈迦堂跡（現誓岸寺裏山）



伝法寺遺跡周辺図

令和3年度 比爪館遺跡第34次調査現地説明会が開催される

紫波町教育委員会が4月上旬から進めてきた比爪館遺跡の第34次発掘調査が終了し、その現地説明会が4月30日に開催されました。今回の発掘調査は赤石小学校体育館西側の個人宅地であり、建造物の建替えに伴うものです。

当日は、会員や会員外が10数名が参集し、町教委の鈴木賢治主任文化財専門員の説明を聞き、質問をし、加えて、発掘された遺構や遺物を自分の目で確かめていました。

町教委説明会資料より(中略あり)

◎調査結果

検出遺構…堀跡I条を発見した。

出土遺物…かわらけ、土器 坏・甕、須恵器 坏・甕、国産陶器、木片

◎まとめ

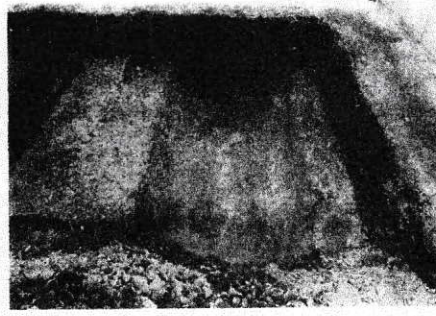
今回は、比爪館遺跡第12次調査で発見された、堀跡の続きが検出すると憶測しながら発掘調査であった。調査区の表土除去を行い検出作業したところ、やはり全体に堀跡が発見され、第12次調査で発見された堀跡の規模と一致した。

出土遺物については、これまでの発掘調査で堀の南側には土塁が構築されていたと考えられている。また、土塁を超えて土器を捨てるという行動は考え難い。以上の事から今回出土遺物は、堀の北側に住む人達(平安時代)が壊れた土器を投げ込んだものと思われる。

比爪館遺跡は、少しづつではあるが内部の様相が分かりつつある。しかし、調査面積は、全体の約10分の1程度しか調査されていない状況である。比爪館遺跡は、国指定史跡柳御所とほぼ同等の遺跡と言える。そういう貴重な遺跡は、早急に内部の様相を明らかにするべきである。



現地説明会の様子



堀跡全景(東から)



出土遺物 出土状況

《《《6～7月 行事予定のお知らせ》》》

<p>6月13日 (日曜日)</p>	<p>第25回 定期講演会</p>	<p>演題 「比爪」「樋爪」の表記について 講師 (公財)岩手県文化振興事業団 平泉の文化遺産ガイドンス施設(仮称)準備室 主任専門学芸員 羽柴直人氏 時間 午後1時30分から3時30分 会場 箱清水公民館(赤石公民館から変更になりました) 駐車場は五郎沼公園広場となります</p>
<p>7月21日 (水曜日)</p>	<p>第121回 月例発表会</p>	<p>午後7時から午後9時まで 会場 赤石公民館 講義室 発表者：阿部朋巳 テーマ「金色堂の話3」 発表者：浅沼幸男 テーマ「片寄城と中野吉兵衛」</p>